

## 📖 今月のおすすめ本 📖

### 『世界をひらく60冊の絵本』 【019.53/ナ】 中川 素子(2024)平凡社

新しい画家の登場や、大手では出ない出版社の増加、視覚表現の強い絵本の増加などでここ25年くらいの間で絵本がかなり変わってきています。また近年、世界情勢やそのあり方を表現する絵本が注目されています。筆者は、社会の中での絵本の認識を小さな子どものためのものという領域だけでなく、本書では「広い文化論的視座」で見ていると言っています。

2000年以降に出版されたものを中心に、「自分らしく生きる」「生き方の多様性」など13のテーマに分け、〈物語るメディア〉など絵本をメディア・リテラシーとしてとらえたり、視覚表現や視点という切り口で、60冊の絵本の解説をしています。今までと違った見方から絵本を解説している本です。

📖 この本に紹介されている絵本、リーブラにもあります

『ライオンのよいいちにち』【726.6/ア】あべ 弘士(2001)佼成出版社

### 『少女漫画家「家」の履歴書』 【726.101/シ】 週刊文春/編(2022)文藝春秋

本書は、1970年代までにデビューした12名の少女漫画家が、これまで暮らしてきた家の思い出を軸に半生を振り返り、その時々で執筆していた漫画について語ってもらった本です。少女漫画の黄金期に傑作の数々を生み出したその裏側と、漫画家たちの原風景を語った貴重な証言集で、それぞれに思い出に残る家の間取り図があり、中には漫画家手ずからのももあります。

漫画家というクリエイターの故郷の原風景や部屋の雰囲気などを知ること、作品理解を深められるはず。アシスタントに来てもらう合宿の光景等は時代を感じます。キャリア40年以上のレジェンドたちが生活の糧として漫画家を選び、人気が出て家も買うという、道を切り拓いてきたからこそいま職業としての漫画家があるのでしょうか。一条ゆかりや美内すずえなどのエピソードを読んでみませんか。

📖 少女漫画について、リーブラにあります

『女子マンガに答えがある』【726.1/ト】トミヤマ ユキコ(2023)中央公論新社